

有害プランクトン情報 (令和元年度 - No. 7)

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所・生産技術研究室
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては、魚類や二枚貝などに影響を与えるので、毎月1回有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

- 調査日 沖合 10月 第1回 内湾 (8地点) 10/2 内房 (7地点) 10/3
10月 第2回 内湾 (8地点) 10/10
貝類漁場内 九十九里 10/9,21,31 千葉北部 10/9 小櫃川河口 10/2

【有害プランクトンの出現状況】

- 有害プランクトンの最高細胞密度は、シャットネラ属が10/3に浦賀水道及び保田で0.05細胞/mL、10/10に船橋で0.05細胞/mLでした。ヘテロシグマ属、カレニア属、シュードシャットネラ属は確認されませんでした。
- 赤潮 (透明度1.5m以下, pH8.5以上, 酸素飽和度150%以上) は確認されませんでした。
※ シャットネラ属は1細胞/mL, ヘテロシグマ属は1000細胞/mL, カレニア属は100細胞/mLを超えた場合に注意報を発出します。

【貝毒プランクトンの出現状況】

- 麻痺性貝毒原因プランクトンの最高細胞密度は、アレキサンドリウム カテネラが10/31に一部の貝類漁場で0.05細胞/mLでした。なお同種は5/13に一部の貝類漁場で45.20細胞/mLまで増加しましたが、この時の貝類検体から麻痺性貝毒は検出されませんでした。
- 下痢性貝毒原因プランクトンの最高細胞密度は、ディノフィシス アキュミナータが10/2に千葉灯標で20.55細胞/mLでした。10/9の貝類検体から下痢性貝毒は検出されませんでした。他種はディノフィシス ロツンダータが10/2に千葉灯標で0.50細胞/mL, ディノフィシス カウダータが10/2に船橋で0.25細胞/mLでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

- 10/2 内湾 珪藻 キートセロス属 (図1), スケルトネマ属
- 10/3 内房 珪藻 キートセロス属
- 10/10 内湾 珪藻 キートセロス属 (図1), スケルトネマ属

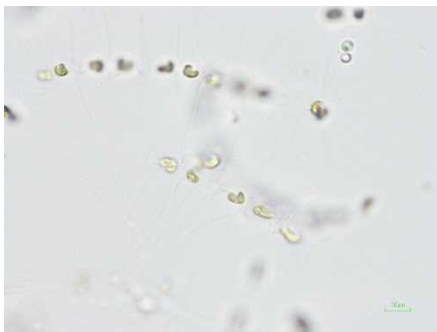
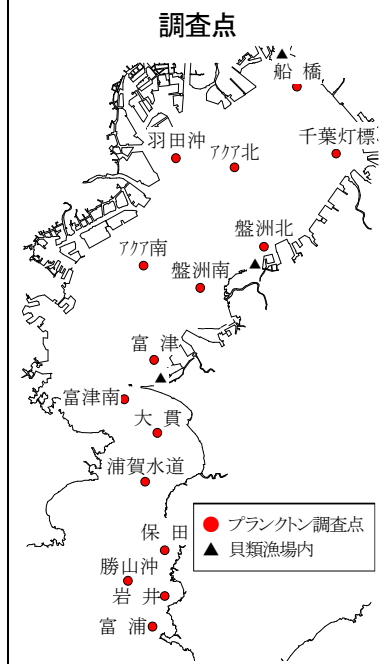


図1 キートセロス属 (10/3 富津南)



連絡先 : 千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所
〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp